

K.UNO NEWS LETTER | Vol.05

ケイウノ オーダーメイド広報通信

毎月1回、ジュエリーやオーダーメイドに関する、さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けする「ケイウノ オーダーメイド広報通信」

ジュエリーとエネルギーは異なる分野。でも、ものづくりへのこだわりには共通項を感じます



日本と海外を忙しく行き来する菊池さん

ケイウノは全国に38店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。ケイウノが取り組む活動や、サービスについて広報誌で発信しています。

今回ご登場いただくのは、結婚指輪の製作がきっかけでご縁をいただくことになった菊池伯夫さん。理学博士として海外で複雑流体の研究を続けられた後、お祖父様の代からの家業を継がれ、現在は茨城県日立市にある株式会社茨城製作所を率いておいでです。同社はモーター・発電機のスペシャリスト集団。2013年度には小型の水力発電機「Cappa」で「グッドデザイン賞・ものづくりデザイン賞」を受賞されました。経営者として研究者として国内、海外を行き来する多忙な日々をお過ごしのか菊池さんに、ケイウノでオーダーいただいた数々のアイテムにまつわるエピソードや、お仕事とジュエリーの新しい関係についてお話を伺いました。

菊池伯夫さん

理学博士 株式会社茨城製作所 代表取締役社長
2004年オックスフォード大学理論物理学博士号取得後、ドイツ・インドでの複雑流体の研究を経て、2009年茨城製作所に入社、持ち運べる軽水力発電機Cappaを開発。

社員の士気向上にもつながったブランドエンブレム

取材当日、ケイ・ウノで眺めていただいた落ち着いたブルーのスーツに身を包まれた菊池さんがご登場。取り出された名刺入れもケイ・ウノ製。名刺入れの表にデザインされた“しずく”のモチーフが印象的です。ふと、目をやればなんと時計にもしずくのモチーフ。しかも名刺入れと同じカラートーン。こちらの視線に素早く気づかれた菊池さんが柔らかく笑いながら、それぞれのアイテムについて説明してくださいました。「名刺入れと時計にあしらわれているしずくは、会社で手がけている「earth milk project」*というプロジェクトのアイコンです。時計には文字盤だけでなく、秒針や裏ブタにもしずくを

あしらっていただいています。さらに時計の時針は、プロジェクトの商品であるスモールサイズの水力発電機をイメージしたものです。オリジナルなデザインが際立つらしくて、突然電車の中で時計マニアだというカナダの方から『こんなデザインは初めて見た。すばらしい時計だ!』と話しかけられたこともあります(笑)」

もともと物理学者で複雑流体など水に関連する研究をされていた菊池さん。結婚指輪には流れる水と共に奥様が大好きだという旅をかけて人生を旅する大きな船をデザイン。結婚後は研究者として6年ほどドイツ、インドで過

ごされて帰国。お祖父様の代から続く今の会社を継承。そして社の代表となり、改めて会社のブランディングを考えられた時のこと……。 「会社のブランディングに取り掛かったのですが、自分たちが目指すブランドを言葉にして説明するのはなかなか容易ではありません。であれば“形”にしようと思った時、ふと9年ぶりに思い浮かんだのがケイウノさん。そう言えばデザイナーの方が“オーダーメイドのデパート”だとおっしゃっていたなと(笑)。当時も様々なアイテムのデザインを提案されていたので、ケイウノさんのオーダーメイド力には一目置いていましたから」

*再生可能エネルギーを自然の恵み「earth milk」と名づけ、自然からエネルギーを「借りる」という発想で菊池さんが展開しているプロジェクト。

こうして完成したのが、プロジェクトに関わるメンバーがつける、しずくの形をした“ブランドエンブレム”。社内のみならず、社外からの好反応にメンバーの士気も向上されたとか。その後オーダーいただいたシルバースプーンもしずくがモチーフ。お客様への飲み物に添えると、感度の高い方からは「お、こんなところにまでこだわって」と話が弾み、コミュニケーションツールとしてもお役に立っているとうれいお言葉をちょうだいしました。

菊池さんからは、ブランドエンブレムやスプーン以外にも飼猫をモチーフにした指輪やネックレス、ユーモアあふれるゴルフマー

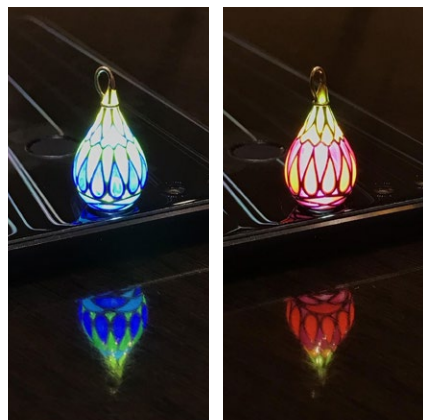
カーなど多くのオーダーをいただいています。中でも取引先の方の似顔絵を入れたキーホルダーは、ご本人があまり気に入ってしまい「傷がつかないようにペンダントにしてほしい」と、プレゼントした翌日ケイウノにリフォームの依頼をされたのだとか。そんな菊池さんが「ジュエリーの新しい価値を創造したい」とお話されるのが、スマートフォンの光を使って灯すランプです。



右：リングをはめてご満悦のライちゃん
左：ライちゃんリング 瞳はパライバトルマリン、毛並みはブラウンダイヤで表現



これまでにない価値を生み出すジュエリー×エネルギー



フックの部分にもしずくのモチーフが

ピンク色の温かな光で周囲を照らす

「2015年、ネパールに2度にわたる大きな地震があり甚大な被害が発生。当社もJICAのプロジェクトでネパールで調査をしていましたが、きちんとしたホテルでもお湯は出ない、燃料不足で真冬に暖房もなく寝るのは寝袋という状態。さらに電気がつくのが夜の10時から朝の5時だけという毎日、持参したPCにも充電ができずトイレに行くにも真っ暗、真の闇という状況でした。その時痛切に感じたのは、人は明かりがないと気分が滅入るとのこと。疲れて帰って真っ暗な闇の中にいると本当に辛くなるんです。小さくてもいいから明かりがほしい、癒やしの光を身近に置きたいと心から

願った時、スマートフォンの光を使ったランプがあればと思ったんです」

帰国した菊池さんは、ケイウノのデザイナーに相談。前例のない試み故に、形状から大きさ、素材など一つひとつに試行錯誤を繰り返し、1年半をかけてようやく完成したのがしずく型のランプシェード。ネパールの震災をきっかけに生まれたこのアイテムを彩るのは赤やグリーンのカラフルな樹脂。スマートフォンのライトの上に乗せると光が透けてステンドグラスのように鮮やかに輝きます。樹脂の各色には意味があり、青く澄んだヒマラヤの空で、赤い太陽からの

オレンジの光が雪を溶かし、緑の植物で保水されたたくさんのお水のしずく(自然の恵みであるアースミルク)が集まって青い川の流れになり、そしてそれが蒸発して空にまた戻っていくと言う、エネルギー循環をイメージしたストーリーになっています。菊池さんのシンボルでもあるしずくの形をしています、見かたによっては地球儀にも見えることも。

エネルギーのプロフェッショナルである菊池さんは、このランプシェードにジュエリーとエネルギーの新しい価値を生み出したいと考えられているとのことで、取材の最後こんな風に語ってくださいました。

「ケイウノさんは単にジュエリーを販売するだけのショップではなく、“メーカー”だと思っています。これまでいろいろなアイテムを製作いただいて感じるの、高い技術力とチャレンジ精神、そしてなによりものづくりに対する真摯な姿勢。これは分野は違いますが私たちの会社にも通じるものがあります。現在世間ではジュエリーはぜいたく品という見かたが大半ですが、今回のランプシェードを通じて、これまでにない新しいジュエリーの価値が見だせるのではと考えています。今後はいろいろな形でその思いを具現化していく予定です」

6月の誕生石 真珠



6月の誕生石は真珠(パール)。日本でも古くから愛された宝石で、日本最古の歌集とされる万葉集にも「あこや」「しらたま」「鯨玉(あわびたま)」と呼ばれて登場します。フォーマルな印象の強い真珠ですが、アレンジによってはさまざまな印象に。